



かたちの生命

手の世界制作 3

会期：2023年3月1日（水）-3月31日（金）

会場：松前記念館エントランスロビー（東海大学歴史と未来の博物館）

時間：10:00-17:00（土曜日は16:00まで）

休館：日曜 祝日 大学の休みの日

※事前申込制（info.kinenkan@tsc.u-tokai.ac.jp）

主催：松前記念館 / 神奈川県 共催：東海大学ティーチングクオリフィケーションセンター

後援：平塚市、平塚市教育委員会 伊勢原市、伊勢原市教育委員会 協力：平塚盲学校 伊勢原養護学校伊志田分教室



東海大学ティーチングクオリフィケーションセンターでは、2020年度から神奈川県と協働事業「ともいきアートサポート事業」を展開しています。障害の程度や状態に関わらず、誰もが文化芸術を鑑賞し、創作し、発表する機会を創出する取り組みです。

当該事業の成果の一端を紹介する展覧会として2020年度から、学内の松前記念館にて「手の世界制作」展と題するシリーズのエントランスロビー展を開催してきました。

2022年度も平塚盲学校、伊勢原養護学校伊志田分教室との連携による取り組み事例を紹介します。平塚盲学校ではアートメダルを、伊勢原養護学校伊志田分教室では大学所蔵の古代アンデスコレクションを活用した「笛吹きボトル」を制作しました。

今回の展覧会では、児童や生徒が制作したユニークな「アートメダル」や「笛吹きボトル」に加え、講師を務めた筑波大学の宮坂慎司氏の彫刻作品、そして「笛吹きボトル」の新展開として昨年秋に実施した筑波大学附属視覚特別支援学校との連携事例も紹介します。

何でもかんでも面一的に育てる現在の制度ではなく、特技でも趣味でも十分に伸ばしてやれるような制度をそろそろ考えなければいけない。粘土を粘って人形をつくるのと教育はちがう。できた人形が手アカがつき、形にはまったものばかりでは困る。個性を伸ばし、色とりどりでなければならない。何よりも、教育には「美」と「生命」を大切に作る心構えが必要である。

松前重義「80年代の教育の課題」（『望星』11-1 1980.1）